

「歴史の証言者・木製プロペラから」

寄贈

この度、新富町の日下勝男氏より、写真にある木製プロペラの寄贈がありました。

戦中、同氏の自宅近くにはプロペラを製造する坂下航空株式会社（昭和十七年「一九四二」創立）がありました。戦後に、切断されたままのプロペラ（全長一・一メートル 幅最大で〇・三メートル）を焚き木代わりにもらい受けたそうです。

『会津坂下町史第三巻近代・現代通史編』には同社のことが載っております。同町史から、切断してプロペラとして使えなくしたということがわかります。終戦直後にGHQ（連合国総司令部）の命令で、軍用機の部品は解体或いは焼却処分しなければならなかったのです。

しかし、このプロペラはそうはならず、偶然、歴史の証言者として姿を現したかのようです。

形状

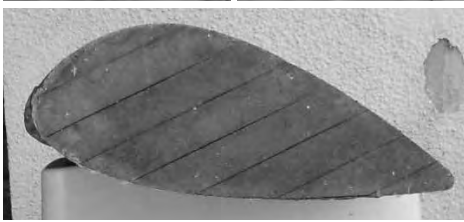
カバノキ（白樺）製で、約二十キログラムありました。本来は二枚羽根のプロペラですから、四十キログラム以上あったはずです。

厚さ二・五センチメートルの板を接着剤で張り合わせて八枚重ねにし、捻り下げるように削り出してプロペラの形にする。その表面を布で覆い、塗料を塗る。仕上げてプロペラの空気を切る縁を真鍮で覆う、このような工程がうかがえます。

用途

同町史に載っている「十四試木製第一号プロペラ完成記念」のプロペラと比較したところ、少し形が違うようです。書籍で調べてみると、旧陸軍の「九三式重爆撃機」の二枚羽根プロペラに似ています。

この爆撃機は昭和八年（一九三三）から同十二年頃まで使用されていました。とすると、昭和十七年創立の坂下航空株式会社は、プロペラ製作の見本として、このプロペラを所有していた



木製プロペラ 写真上：(左) 裏・(右) 表・(下) 断面



旧陸軍九三式重爆撃機

のかもしれない。

疑問

ところで、昭和十九年（一九四四）の「十四試木製第一号プロペラ完成記念」写真には白い軍服姿の旧海軍将校が写っています。このことから、同社は旧海軍にこのプロペラを納品したことがわかります。

「十四試」とは、旧海軍がプロペラ開発に着手して十四回目の試作の発注を意味します。既にアルミ合金製のプロペラが主流の昭和十九年当時、旧海軍はなぜ、新たな木製プロペラの開発に乗り出したのか疑問が浮上してきます。

一つに、金属資源の確保から、プロペラの木製化が考えられます。

「十四試木製プロペラ」は二枚羽根であり実戦機用とは考えにくく、練習機用が相当と言えます。実戦機は、三



昭和 19 年 十四試木製第一号プロペラ完成記念
坂下航空株式会社 (写真提供：真嶋善介氏)

枚羽根か四枚羽根のアルミ合金製のプロペラを付けていました。それでも旧海軍は、この木製プロペラを付けた新機種の軍用機の開発に着手する理由があったのです。

写真の日付は昭和十九年とあり、何月かは不明です。軍用機による体当たり攻撃（特攻）が開始されたのは、昭和十九年十月からでした。当時は、生還を期さない攻撃方法に向けた各種の特攻専用機の開発が始まっていました。その一つとして、このプロペラを付けた機体も開発されていたのではないかとという推測も捨てがたいのです。千馬力以下のエンジンにこのプロペラを付けて、練習機にもなる機体です。さらに、機体の木製化にも着手していたので、貴重な金属資源を抑えた木製プロペラは特攻用として最適であるとして、旧海軍は開発を進めたのかもしれない。資材不足の中、金属資源は、最新鋭の軍用機開発と量産に充てる。このような意図が見えてくるのです。

終戦時には、日本国内に大小様々な軍用機が一万機はあったと言われていますが、そこに、今述べたような軍用機が含まれていたかは不明です。戦中には、全国に「坂下航空株式会社」のような会社が存在し、試作の競合に参加したと思われます。その運用は防諜上、秘匿されたでしょう。

このあたりの事情に詳しい方がいらっしゃるいましたら、ご連絡ください。

問い合わせ先 町史編さん室

☎ 83-2234

ばんげの 味 が 育てる その48 おいしい 楽しい 健やかライフ



坂下南小学校では、「学級活動」の時間に全学年の発達段階に合わせて、「食育」について学校給食センターの二瓶美智子栄養教諭とともに学習をしています。今回は、下学年の学習の様子をご紹介します。



紙芝居を使って、野菜嫌いの子の例で問題を考えました。

1年「やさいとなかよくなるう」

元気な体をつくるためには、野菜を食べることが大切であることを学習しました。

野菜の働きには、次のようなことがあることがわかりました。

- ・おなかの調子をよくする。（バナナうんち）
- ・かぜをひきにくくする。
- ・目の働きがよくなる。

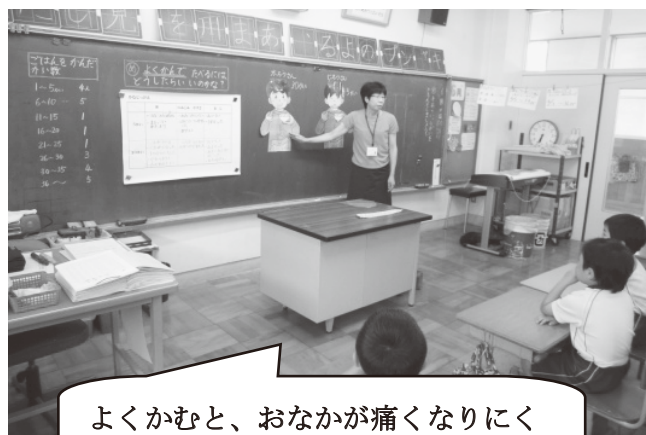
学習のまとめでは、自分の苦手な野菜を少しでも食べることができるように話し合い、一人一人自分のめあてを立て、めあてが守れたらワークシートに色をぬり、がんばることを決めました。

2年「よくかんで食べよう」

普段の食事で一口何回かんでいるか聞いたところ、1～30回と様々でした。そこで、ご飯を5回と30回かんだときのご飯の形、飲み込みやすさ、味を比べました。「30回かんだ時の方が、どろどろになって、飲み込みやすいよ。」「よくかんだ方が、ご飯の味がよくわかっておいしい。」という感想を持ちました。よくかむと、

- ・味がよくわかる。
- ・頭の働きがよくなる。
- ・太りすぎを防ぐ。
- ・唾液がたくさん出て、虫歯を防ぐ。

など、「かみかみ大作戦」として、よくかんで食べることをめあてにすることができました。



よくかむと、おなか痛くなりやすいことも知りました。



食べ物は、どんなことに役立つのかな。

3年「好き嫌いをしないで、 いろいろ食べよう」

給食では、好きなものだけを食べて、嫌いなものは少しだけ食べたり、残したりする様子がみられます。そこで、健康な体をつくり、すくすく成長するためには、バランスのよい食事をするのが大切であることを学びました。子ども達一人一人が、自分のめあてを持ち、記録をつけながら好き嫌いしないで食べようという気持ちを持つことができました。

★12月19日は食イクの日・家庭料理の日★



中央公民館 図書室だより Vol.42

中央公民館図書室 TEL 83-3010 (定休日:毎月第2火曜日)



師走に入って、寒さも一段と厳しくなりました。

クリスマス、大掃除などあわただしい年の瀬ではありますが、そんな時こそ気分転換におうちでゆっくり読書はいかがですか？

◆ おすすめ本 ◆

大河ドラマ『八重の桜』が始まって一年、ドラマもいよいよ最終回となりました。

図書室でも主人公・新島(山本)八重の関連本を購入し、特集コーナーを設けて展示してきました。

そこで今回は、『八重の桜』の中に登場した方々にスポットをあてた本をピックアップしてみました。

小説	正妻：慶喜と美香子（上巻・下巻）
	林真理子 著 講談社
幕臣や大奥から「二心(にしん)殿」と陰で呼ばれていた徳川慶喜公に翻弄された会津。その慶喜の正妻と側室を主人公に、新しい視点で慶喜の人間像と徳川幕府の崩壊を描いた小説です。	

評伝	山川家の兄弟：浩と健次郎(人物文庫)
	中村彰彦 著 学陽書房
薩長藩閥政治という逆風の中の明治を歩みながら、兄は将軍、弟は東大総長へ。会津武士の誇りを貫き毅然として生き抜いた兄弟、山川大蔵(浩)と健次郎を描いた歴史評伝です。	

◆ 新着本の紹介 ◆

分類	本のタイトル	著者名	出版社
絵本	どんぐりころちゃん	みなみじゅんこ 作	アリス館
絵本	しゃもじいさん	かとうまふみ 作	あかね書房
物語	はれたたまこぶた	矢玉四郎 作・絵	岩崎書店
物語	紫の結び(源氏物語; 1)	荻原規子 訳	理論社
伝記	出光佐三反骨の言魂	水木楊 著	PHP 研究所
小説	だから荒野	桐野夏生 著	毎日新聞社
小説	ゼツメツ少年	重松清 著	新潮社

☆このほかにも新着本がまだまだあります。
ぜひ、図書室へお越しください。

◆ 新着本おすすめの1冊 ◆

税法	税務署は見ている。 (日経プレミアシリーズ)
	飯田真弓 著 日本経済新聞出版社
税務調査員だった筆者の真面目な現場リポート。税務調査の実態がわかり、来年確定申告する予定の人など、納税者にとって興味深く参考になる1冊です。	

☆ 年末年始休業のお知らせ ☆

図書室は12月29日(日)から1月3日(金)までの間、年末年始休業とさせていただきます。尚、1月4日(土)より通常開館となります。

※上記期間中は公民館も閉館していますので、事務室の返却箱も利用できません。

